



端正な美しさの車寄せアプローチから望む「Metropole Monte-Carlo」のゴージャスな正面エントランス



ライトアップされて華やかに浮き上がる本館正面ファサード



ミシュラン1ツ星を獲得した日本料理店「Yoshi」。店内は斬新なインテリアを施し、正面奥には見事な日本庭園を配している



筆者 小原康裕
 ホテルジャーナリスト。
 慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re 入社。85年築地原健機代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。
 ※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。
www.jhrca.com/worldhotel

メトロポール モンテカルロ Metropole Monte-Carlo

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



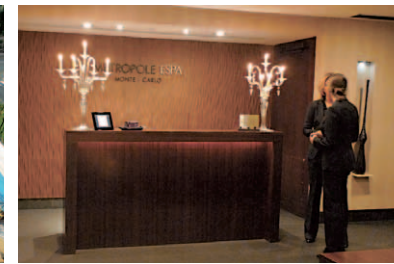
正面玄関を入ってすぐ右手にある優雅なコンシェルジュデスク



レセプションデスク前のラウンジ。各界の著名人のレリーフが壁に飾られているユニークな空間だ



部屋の真下に広がるエレガントな屋外スイミングプール。左手は正面玄関に至るエントランス・アプローチ



「Metropole ESPA Monte-Carlo」のレセプションデスク



壁に掛けられた年代物のゴブラン織りタペストリーが圧倒的な存在感を放ち、一種独特の甘美な空気が漂うラウンジ。世界的インテリアデザイナーのジャック・ガルシア氏の傑作だ



大きな窓を開けてベランダから冬の貴重な日差しを受けるリビングルーム。この部屋は「Deluxe One Bed Suite」の客室で、トップフロアにある約60㎡のコーナースイートだ



ミシュラン2ツ星レストラン「Joel Robuchon Monte-Carlo」のエレガントな室内空間



リビングルームから俯瞰したベッドルーム。ベランダから見る紺碧の地中海が美しい



ベランダに囲まれたコーナースイートのリビング。窓を開けるとグラン・カジノをはじめモナコの中心部が手に取るように望める

“A modern hotel with a wonderful pedigree”
 「由緒ある系統を誇るモダンなホテル」とホテルの歴史に掲げ、世界中のセレブリティから絶大な評価と人気を誇るモナコを代表するホテルだ。1886年に「Monte-Carlo Company Ltd」がローマ法王レオ13世の所有していた土地にホテルを建設したことに始まる。その後の変遷を経て、2004年に全面的なリニューアルを果たし、最新設備を誇る現代的なラグジュアリーホテルとして生まれ変わった。世界的なインテリアデザイナーであるジャック・ガルシア氏が内装を担当し、モダンでありながらこれまでの歴史と格式を尊重したデザインに統一された。伝統的な優美さに現代的なテイストが見事に調和した美しいホテルとして世界中の顧客に愛されている。

クラシカルで重厚感溢れるロビーの奥に、ミシュラン2ツ星レストラン「Joel Robuchon Monte-Carlo」が店を構える。現シェフのクリストフ・キューザック氏が生み出すのは、“ロブション”流の革新的フランス料理と、モナコという土地の恵みを加えた地中海料理の融合である。ひときわ目を引くのはオープンキッチンに面したカウンター席だ。日本でもお馴染みの「L'ATELIER de Joel Robuchon」の手法が、この重厚な雰囲気の内にも使われている。メトロポールが誇るもう一つの“ロブション”が日本料理の「Yoshi」である。「Yoshi」はこれまで2度、グルメ界に大きな話題を提供している。最初は2008年の開業時、あのロブションが和食レストランをプロデュースしたとして、世界のグルメたちの話題をさらった。二度目は、その1年半後にミシュラン1ツ星を獲得してしまった事であろう。シェフの山崎氏は長年ロブションの下でフレンチのキャリアを積み、後に懐石料理の道に転じその卓越した腕前で、連日地元のセレブたちの舌を唸らせている。

メトロポールは全141のゲストルームを有し、そのうち約半分の64室がスイートという贅沢な客室構成である。エントランスを抜けると絢爛かつ重厚なロビーに圧倒される。ジャック・ガルシアが特に強いこだわりを注いだロビーは、一種独特のけだるい甘美な空気が漂う空間だ。地元セレブのマダムたちもこの稀に見るエレガントな空間をよく理解して、連日アフタヌーンティーで賑わっている。また、モナコ随一といわれ評価の高いスパ「Metropole ESPA」は、ホテル本館から独立したエリアにあり、ちょうど日本料理「Yoshi」の店と車寄せアプローチを挟んで双方のエントランスが向き合っている。

SBM傘下のオテル・ド・パリやエルミターージュが、ともするとアメリカなどの海外からの観光客やカジノ絡みの顧客層が多いのに対し、メトロポールは地元モナコのハイソサエティーを主な顧客層としている。したがってよりきめ細やかなホスピタリティーが要求され、例えばルームサービスで用意される料理もロブションのプロデュースという。まさに「モナコの宝宝箱」と称されるメトロポールは、モナコという一流ブランドの響きにも似たイメージと共に、深い憧憬の念を抱かれ続けるであろう。